

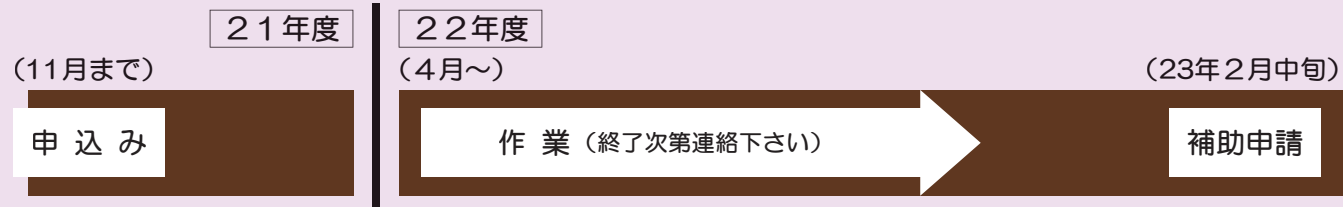
造林補助事業

林齢	作業種	植付	下刈	枝打	除伐	間伐 (5年毎)	備考
1年生		○*①	○				*①植栽本数 概ね 2000本/ha以上 (再造林のみ)
2年生～10年生			○	○			
11年生～15年生				○	○*②		*②間伐率20%以上
16年生～上限なし				○		○*③	*③間伐率 20%または30%

1ヶ所 0.1ha(1反)以上

注 平成22年度(来年度) 作業の申込みについて

21年11月までに申込みを頂き⇒作業実施⇒作業完了後に連絡を頂くというように、計画的に作業を進めていかないと採択できなくなる場合があります。ご注意ください。



大紀町の山でも

「熊ハギ」が確認されました。



H21年6月、大内山地内での山林調査中、ツキノワグマによる「クマはぎ」行為の被害にあったスギやヒノキの樹木を確認しました。大紀町地内でのこのような被害は、山を歩き回っている当組合の職員でも見たことがなく、入山する場合は熊に対する知識を踏まえた上、充分注意してください。



大内山池ノ谷越地内の熊ハギ

熊への対策

- くま鈴を付ける。(音の出るものを持つ)
- ナタ等を携帯する。

熊に遭遇したら

- 熊が見まいなかったら静かに逃げる。
- 目が合ったら、そらさず後ずさりする。
- 大声を出したり、走り出したりしない。

「熊ハギ」とは、木の樹皮をはぎ取るツキノワグマの習性のひとつです。主に5月～7月にかけて見られ、樹皮を失った樹木は商品価値が失われ、左写真のようにひどい場合は枯死します。樹皮をはぐ理由として、糖分を含む樹液をなめる採食行動説のほか交尾期のメスへのアピール説などがあります。

「森林インストラクター」資格 を取得しました。

林産課 柳田圭一

H20年12月に森林インストラクターの資格を取得しました。

この資格は、(社)全国森林レクリエーション協会が行う資格試験に合格し登録することにより、その称号が付与されるものです。現在、全国で2709名(三重県26名)が森林インストラクターとして登録されています。

その役割は森林を利用する一般の人に対して、森林や林業に関する適切な知識を与え、森林の案内や森林内での野外活動の指導を行う者と定義されています。昨今、環境問題で二酸化炭素削減に林業が果たす効用が注目され、環境教育の推進が非常に重要とされています。森林インストラクターはこの様な時代の要請に答えて活躍が期待されています。

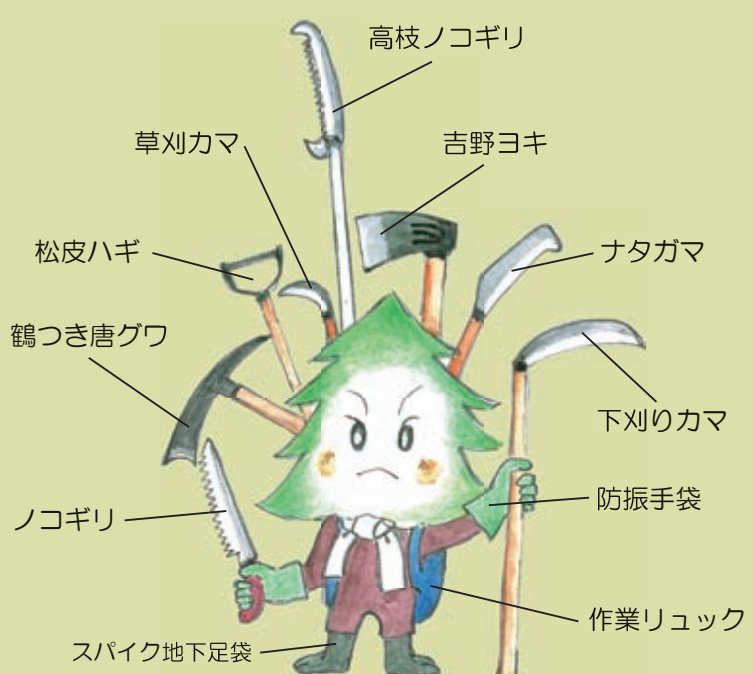
私は現在、林産課班長として生産性の向上を目標とし、機械化による素材生産に取り組んでいます。今後は森林インストラクターとして、環境にダメージを与えない配慮した施業を心掛けると共に、機会があれば林業教室などのイベントで林業の重要性を伝えていきたいと考えています。



林産課の仲間たちと(中央に柳田班長)

購買品紹介 ⑥

小さな売場ですが、組合には下図のようなひと通りの林業用刃物が揃っています。日頃から山林作業をしている職員のニーズに応えた商品ですので、丈夫で使い勝手がよいものです。切れ味は品質と砥ぎにより決まります。各種砥石やマスリも揃えていますのでお立ち寄り下さい。



しんくん (大紀森林組合応援キャラクター)

役員定数が変わります。

去る5月27日に開催された総代会での提案事項であった「役員の数削減」については賛成多数で可決されました。

よって、平成22年度の役員改選では、現行の18名より、大宮・紀勢・大内山地区で各1名が削減され、15名を選出することになります。

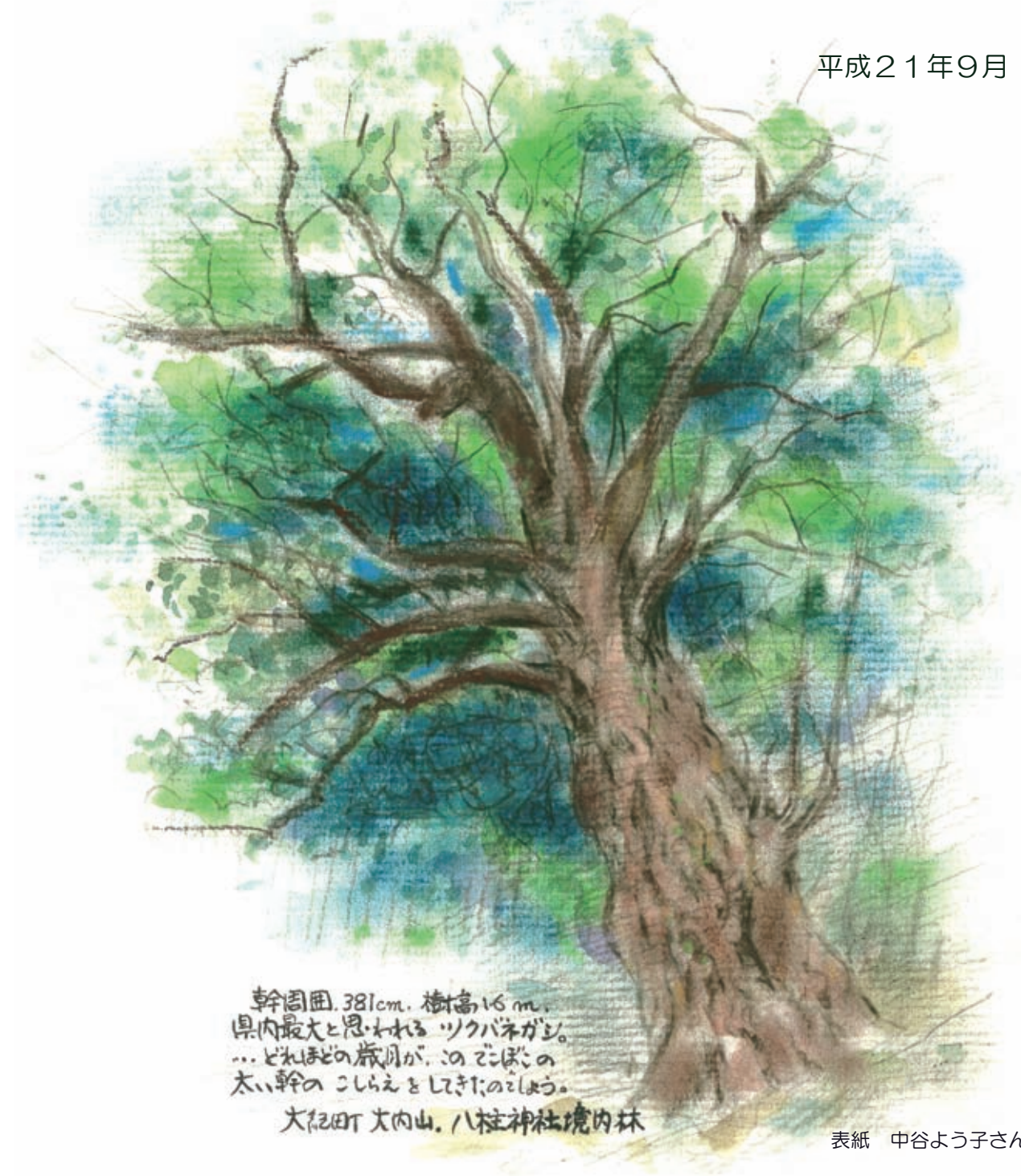
編集後記

54年ぶりの政権交代に人々は何を期待するのでしょうか。膨らむ期待の裏側で、地球温暖化は容赦なく進みます。「一人では何も変えられない」そんな思いを乗せたまま、日本はどこまでやり直せる勇気を持てるのでしょうか。

第26号

大紀森林組合だより

平成21年9月 発行



幹周囲381cm、樹高16m、
県内最大と思えるツクバネガシ。
...どれほどの年月が、この木の
太い幹のこしらえと生長の証。
大紀町 大内山、八柱神社境内林

表紙 中谷よう子さん

もくじ	頁
木材生産～流通の合理化	1・2
カスケード利用による流通の流れ	3
造林補助事業・熊ハギ確認	4
森林インストラクター・購買他	5

三重県度会郡大紀町崎 239-2

TEL. 0598-74-0224

FAX 0598-74-0379

業務 E-Mail taikisin@ma.mctv.ne.jp

総務 E-Mail taikisom@ma.mctv.ne.jp

木材生産～流通の合理化への取り組み

「がんばる三重」の林業創出事業による支援

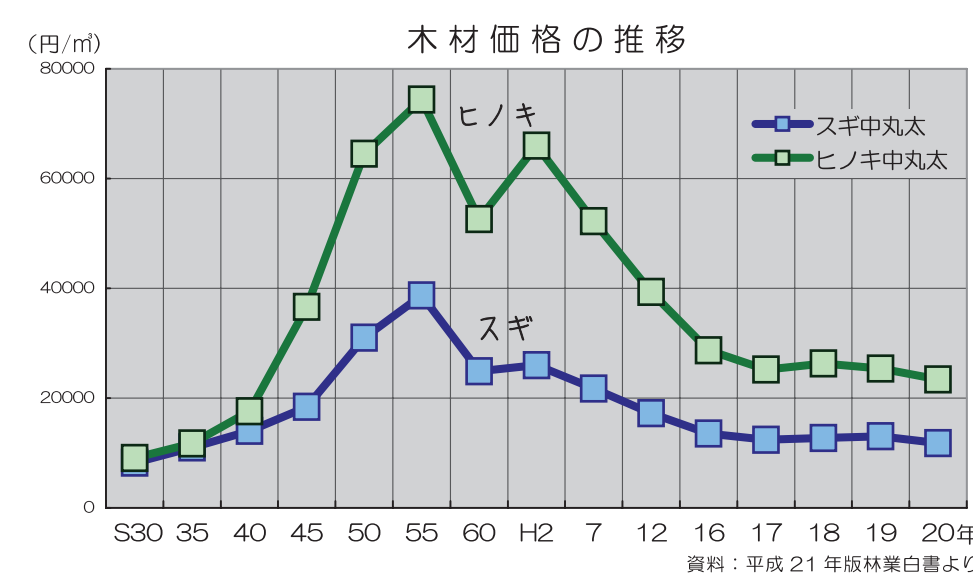
林産課長 服部和徳

I 背景

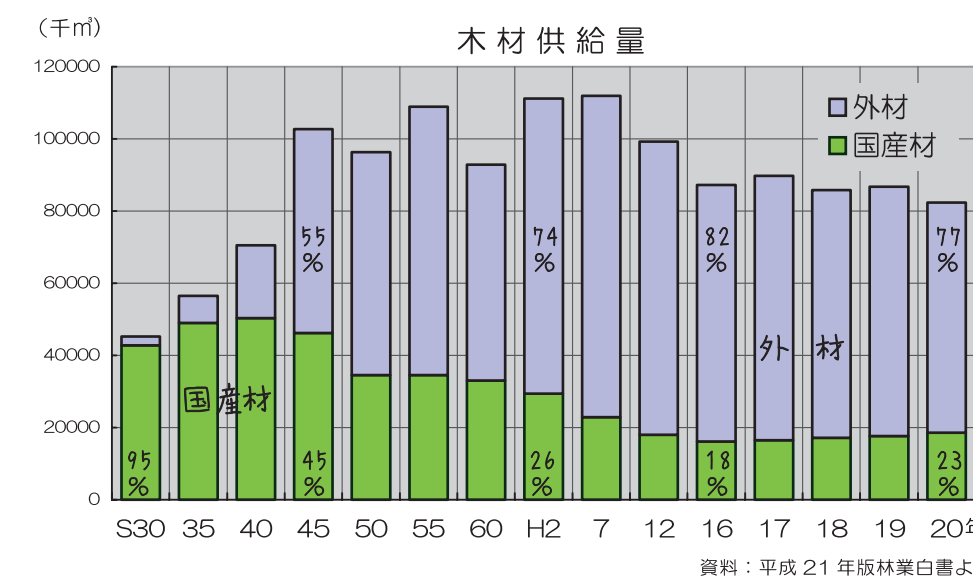
戦後植栽されたスギ・ヒノキ林が利用間伐、主伐の時期を迎えつつある中、国産材の価格の下落と正比例し整備されない森林が目立ちます。本来なら外材に変わり利用シェアが拡大し、それに伴い地域の森林整備と材の有効活用が推進されるはずでした。

しかし、国内の住宅様式の変化及び住宅建築基準法の改正等により国産無垢材の利用が減少し、価格下落の要因となっています。とりわけ手間をかけて育ててきた優良材による高収入は現在のところ期待できず並材扱いの価格となっていて平均価格を一段と下げています。

このような材価に対向するには、伐出コストの削減のみならず、その木材を最大限有効活用するため、需要拡大が見込める販売先へカスケード(多段階)販売し、かつ、その販路における木材流通の合理化による中間コストの削減で収益を向上させる対応が必要と考えられます。



年度	スギ	ヒノキ
S30	8,200	9,100
35	11,000	11,700
40	14,000	17,600
45	18,400	36,600
50	31,000	64,500
55	38,700	74,400
60	24,900	52,600
H2	26,000	66,000
7	21,700	52,200
12	17,200	39,300
16	13,500	28,700
17	12,400	25,200
18	12,700	26,300
19	13,000	25,400
20	11,800	23,400



年度	国産材	外材
S30	42,794	2,484
35	49,006	7,541
40	50,375	20,155
45	46,241	56,438
50	34,577	61,792
55	34,557	74,407
60	33,074	59,827
H2	29,369	81,793
7	22,916	89,006
12	18,022	81,241
16	16,155	71,036
17	16,555	73,245
18	17,176	68,681
19	17,617	69,174
20	18,626	63,736

II カスケード利用の現状

当組合の取り組みとしまして

- ① 作業区域を団地集約化し、森林所有者の方に間伐等の施業提案を行い、作業道を開設し高性能林業機械による低コストの伐出作業を実施し森林整備と木材利用を推進しています。
- ② 高性能林業機械作業は全木集材が基本となるため、造材作業地には原木以外に元ハネ、梢端部、枝葉が集まります。そこで、昨年4月よりスギ・ヒノキの元玉、2番玉の良質材(A材)は従来どおり原木市場で競り売り、スギの2番玉等で末口14cm以上の黒芯・小曲り・アリクイ等の材(B材)は4mに造材し、合板会社との供給協定のもと安定価格で販売、スギ・ヒノキの3番玉の末口13cm以下の構造用不適材(C材)や割れなどの欠点材、そして元ハネ、梢端部に至るまで地元のチップ工場へ販売するという、1本の立木すべてを最大限活用する取り組みを行っています。(右ページ参照)
- ③ 組合独自で土場を確保・整備し、合板会社・チップ工場へ出荷する原木の仕分けや直送のためのトレーラー等受け入れが可能な環境をつくり、従来流通の中間で発生していたコスト削減に努めています。

しかし、平成21年4月に入ってから昨年秋のアメリカ発の不況の影響で、原木市場の販売価格が一段と下落しました。それに伴い合板会社の原木の引き取り価格も昨年と比較しm当たり1,500円～2,500円下がりました。これは本当に厳しい状況です。

III がんばる三重の林業創出事業による支援

このような時、平成21年度当県は「がんばる三重の林業創出事業」という県産材の生産体制の整備をはかるとともに、木材のカスケード利用を進め、従来の流通を抜本的に変革し新しい流れをつくることを目的とした支援事業を立ち上げてくださいました。

この事業は、県下7地域各々において行政、森林組合等の事業体、原木市場、森林所有者の代表等が協議会を立ち上げ、地域材の増産を図り、木材生産から流通の合理化を推進し、林業の活性化を目指すための合理化計画を樹立します。そして、計画を県に認定してもらえばそれに基づいた事業費の一部の助成を受けることができるというものです。

当組合は早速この支援事業を活用したいと思い、宮川森林組合、いせしま森林組合と共同で宮川・伊勢地域の林業合理化計画を樹立し認定していただきました。

支援内容

1. 森林の団地化・施業の集約化の推進にかかる経費
2. 高性能林業機械を稼働させるための作業道開設にかかる経費
3. 木材のカスケード利用にかかる仕分け・運搬にかかる経費

IV 今後の方向

今後の方向としては、現在、現場処理されている枝葉をバイオマス燃料や木質ペレットの原料として供給していきたいと考えています。そして、木材の生産から販売にいたるまでの木材流通合理化の体制を確立し、この厳しい材価のなかでも、森林所有者と地域住民の方々に経済面と環境面で利益還元できるように努めたいと考えています。

カスケード利用による原木の流れ

